卒業生にインタビュー

今後、ホームカミングデイにて会長からインタビューをご依頼します！

▼継続は力なり

川畑博通氏
1期　卒業生

「継続は力なり」。基本を大切に毎日コツコツと努力を続けていれば、花は必ず咲く。私が大切にしている言葉です。今振返れば、金蘭千里の学生生活がスタートラインと思っています。

入学した当時は全てが今までの学生生活とは違い、斬新な事ばかり。一クラスは三十人の小クラス、毎朝二十分のテスト、英語と数学は能力別クラス編成。体育はサッカーのみ、旅行はキャンプだけ。基本を徹底的に継続する大切さと、それに耐える体力、加えて競争力を学んだと理解しています。もちろん組織の和を大切にする心は云うに及びません。

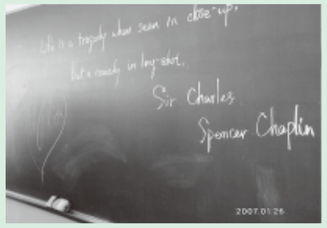
多くの後輩諸君が卒業し社会人として多方面で活躍され、母校の評価向上に貢献されています。まさに“継続は力なり”を実践されているのではないでしょうか。

昨年ホームカミングデイで母校を訪ねた時に感じた事でした。皆さん、母校を訪ねて学生気分に戻り、気分転換し、心身共にリフレッシュされるのも良いと思いますよ。

▼満喫！モラトリアム

六井若菜氏
40期　卒業生

十九歳を目前にして思うことは、今しかできないことをやろうということ。成人して社会にでれば、責任や義務が発生する。今なら少しの失敗は見逃してもらえる。ならば、「しない後悔よりはする後悔」だろう。いつもいつもこう思っていては息がつまるかもしれない。しかし、行動をおこせば、成功しようが失敗しようが、そこから得られるものは絶対にある。全く後悔せずに生きるのは無理だからこそ、後悔することで成長できるからこそ、どうせ後悔するなら少しでも多くのものを得て、大学四年間のモラトリアム期間を満喫するつもりです。



開催報告

平成19年6月10日（日）ホームカミングデイ

去る平成19年6月10日（日）、少し心配された天候も当日は快晴の中、午前9時半から会場受付を始め、サッカーは野外グラウンド、バレーは体育館で各卒業生が交流を深めるべく、和やかな雰囲気でチーム参加された方も有意義に楽しみました。

また、予定どおり視聴覚教室では、13期生　大中章氏司会のもと、総会が開催されました。中條富士人尚友会会長、辻本賢学園理事長の挨拶と加藤信明事務局長の会計報告の後、24期卒業生NHK大阪アナウンサー澗随操司氏による講演が行われました。

午後1時頃からは『光の広場』において、懇親会が盛況に開催されました。創設からの写真が展示され、在校時を思い出す懐かしいものでありました。光の広場から外に出た、緑の芝生があるテラスにバーベキューを用意し、屋外での食事を楽しみました。

懇親会では、教職員の紹介、スポーツイベントの表彰式、新校舎の説明など、話題のつきない一日となりました。

同窓会組織が発足して、まだ月日は浅いですが、毎年6月第2週の日曜日にホームカミングデイを出来ればと尚友会は考えています。とりわけ大きなイベントがあるわけでもありませんが、久しぶりに学校へ戻ってくるというのが、校長　辻本賢氏の切なる願いでもあります。卒業生の方が、毎年代わる代わる参加してもらえたら、尚友会活動も活力のあるものとなるでしょう。今年は6月8日（日）に開催いたします。

尚友会事務局

澗随操司氏による講演

▶創設時からの写真展示コーナー

▶屋外テラスバーベキュー会場

◀懇親会場（光の広場）

キャリアガイダンス

○高二対象　平成十九年十一月三十日（金）

第1回　誕生の現場から　～医師として女性として

大阪警察病院
産婦人科副医長
上野裕子氏（二十四期生）

家庭科授業の一環として話していただいた。周産期医療で様々な問題が噴出している昨今、三千人以上の赤ちゃんを取り上げた経験から、現場医師のご苦労を伺う。妊娠中の自覚の無い患者を叱ったことや、異常分娩手術の緊迫した様子などリアリティーのあるお話に、生徒諸君も驚きの声を上げ、いのちを授かり育むことの大切さを改めて感じることが出来たのではないか。（桑木）

第2回　魅力的に演出すること

NHK大阪放送局
アナウンサー
澗随操司氏（二十四期生）

情報科授業の一環として行われ、古舘伊知郎氏のプロレス実況に憧れてアナウンサーを目指したこと。この仕事が単に用意された原稿を読むだけではなく、目の前の情景をいかに生き生きと伝えるか常に腐心していること。在り来たりではない、良い意味で視聴者の期待を裏切る表現にこだわっていることなどを、ご自身の出演番組のVTRを流しながら説明された。言葉を大切にし、言葉の力を信じる仕事であることがよく分かった。（桑木）

○高二対象　平成十九年六月二十三日（土）

北海道大　医学部
徳山実佳さん（平成十三年度卒）
大阪大　医学部
花井洋人さん（平成十九年度卒）
京都大　文学部
六井若菜さん（平成十九年度卒）

○中一対象　平成十九年十一月五日（月）

カジキ釣りのおもしろいお話

山本光平氏（七期）

ヤマハ勤務時代にはレジャーボートの日本一のセールスマンとなり、その後、家業を継いだ美容室経営でも大成功を収めると同時に、カジキ釣りの日本チャンピオンとして活躍されている。講演の内容は単に「カジキ釣りのおもしろいお話」ということに留まらず一つの道を究めようとする山本氏の人生哲学が随所に盛り込まれ、大変興味深く有意義なものであった。（林）

○高二対象　平成十九年十一月十七日（月）

卒業生による講演会

外務省
外交政策調整官
船越健裕氏（十七期）

翌々日にはワシントン出張という大変お忙しい氏から、3週間前に安倍首相に随行して出席したドイツ・ハイリゲンダムサミットの舞台裏や、地球温暖化に対する日本政府の取り組み等について、貴重なお話をうかがった後、専門分野に特化されない幅広い勉強が出来るのは、高校時代の今しか無いとエールを頂いた。（桑木）

音楽鑑賞会
―チェコ「少女合唱団《イトロ》」に接して―

音楽部員と合唱団員

五月十二日（土）、佐藤記念講堂にて、演奏会が実施されました。本校の中学一年・二年・高校一年の生徒達が大学生や地域の人々と一緒に鑑賞しました。

主催者の大学のご配慮で、合唱団員が一四才～一八才の少女達ということもあり、同年代である音楽部員二六名（中三～高三）がスメタナの「モルダウ」と岡野貞一の「ふるさと」を共演しました。同世代とはいえ、プロとして世界各国のステージに立っている三十五名の合唱団員と共演するということは音楽部員には貴重な経験になったことと思います。また聴衆である生徒達も友達がステージで一緒に歌っている姿を見て、演奏会そのものがより身近なものになったことでしょう。（河邉）

キャンプ活動

本年度のキャンプ（野外活動）は、五月十六日（水）、中三大山キャンプが出発し、最終五月三十日（水）に出発した高二乗鞍・上高地キャンプまでの約一ヶ月間にわたり実施、高三兎和野、高一嬉野台、中一吹田、中二今津と、無事終了いたしました。

一日目の夕食は水炊きです。みんなで食べるとおいしいね！
でも、この鍋食べれば食べるほど増えるんです……?!

中学三年間の締め括りとなる大山キャンプでは、天候には恵まれず強風・降雨の中の活動になり、大変苦戦しました。予定変更の為三日目になった大山登山も、霧雨の中出発。苦しかったが頂上を極めた時には何とも言えぬ達成感が得られ、苦難から様々なことを学んだキャンプとなりました。

金蘭千里高校 OB親睦コンペのご案内

◎開催日時：平成20年11月2日（日）
◎開催場所：関西クラシックGC
※詳しくは、尚友会事務局までご連絡下さい。